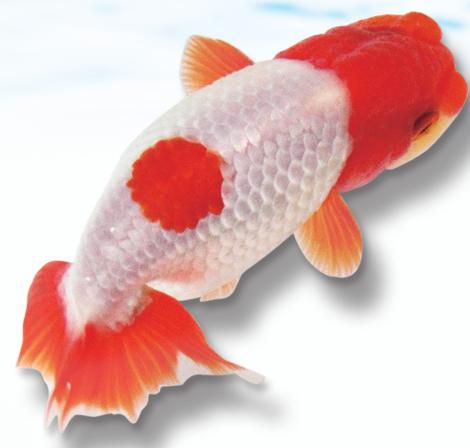


# 知つておきたい 魚の病気と治療



**JPD®** JAPAN PET DESIGN  
日本動物薬品株式会社  
本社：東京都葛飾区西新小岩4丁目37番9号(〒124-0025)  
大阪支店：大阪府東大阪市美原東3丁目13番12号(〒578-0948)

<http://www.jpd-nd.com>

※本紙の内容は2022年1月現在のものです。

**JPD®** JAPAN PET DESIGN  
日本動物薬品株式会社

## 【なぜ魚は病気になるのか?】

人間も魚も病気になるまでのプロセスはほとんど同じです。魚にも人間と同じように「ストレス」があります。魚は変温動物であるため、周囲の温度が変動すれば魚自身の体温も変化します。このため、季節の変わり目や梅雨時などは水温が不安定になりやすく魚はストレスを受けやすくなります。これと同じくpHにも適正値があり、適正値から上下すればストレスになります。アンモニアに関しては、魚は排泄物(糞や尿)をそのまま生活周囲に排泄するため濃度が高くなればそれだけストレスになります。このストレスがたまると、魚の免疫力が著しく低下します。すると、水中にいる病原性バクテリアや小型の寄生虫に対する防御能力が減少し、病気に感染・発病してしまいます。

## ●魚のストレスとなりうる要因

### ① 水質

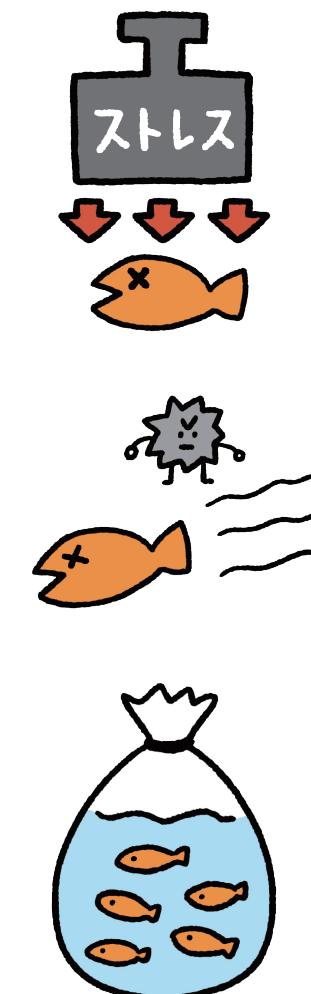
- 水温:魚は自分で体温を調整することができません。したがって、水温によって体温が変化してしまいます。水温の急激な変化は過度のストレスになります。
- pH(ピーエイチ):魚は、ゆっくりと変動するpHにはある程度耐えられますが、急激なpHの変動はpHショックなどの弊害をもたらします。
- アンモニア、亜硝酸等:濾過設備が満足に機能していないと、魚の排出したアンモニアや、濾過細菌が酸化した亜硝酸などにより中毒症状になります。

### ② 外傷

先の尖った流木やアクセサリーなどによって体に傷が生じ、病原性バクテリアや寄生虫などの侵入を許してしまいます。また、魚同士の喧嘩によっても外傷ができます。

### ③ 輸送

輸送は少ない水量でしかも多量の魚を入れるために、水質の急変が発生しやすく、夏期や冬期は水温の急変がおこりやすくなります。また、コリドラスやプレコなど、堅い鱗を持つ魚は、お互いの体で傷を付けてしまうことがあるので、なるべく魚の数を少なくして輸送することが望ましいといえます。



## 【観賞魚用医薬品の基礎知識】

魚が病気にかかった場合、魚は言葉をしゃべることができないので、飼育者が病状を判断し、適切な魚病薬(観賞魚用治療薬)を使用することが必要となります。魚病薬の使い方を含めた観賞魚の病気対策をまとめました。

### 【病気と思われる症状の一例】

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 体表に白い点が多数付着している</li> <li>• 体表に綿のようなものが付着している</li> <li>• ヒレの一部が白くなっている</li> <li>• ヒレが溶けている</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 群れから離れて泳いでいる</li> <li>• フラフラ泳いでいる</li> <li>• 食欲がない</li> <li>• 砂利に体をこすりつけている など</li> </ul> |
|---|--|

### 対策①:予防・早期発見

魚を病気から守るためにには、病気の発生を防ぐ環境が必要です。ちょっとした心配りで病気の発生を少なくできるので、ポイントを押さえておきましょう。

#### ●魚にストレスを与えない…

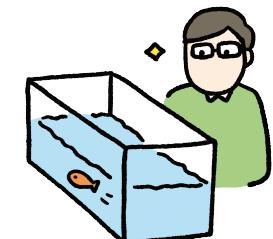
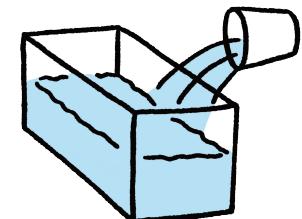
魚が病気になるときは、必ずストレスを受けています。魚がストレスを感じると、病気に対する免疫力が低下するために病気になります。したがって、魚にストレスを与えないように飼育できれば、病気の発生を低く抑えることができます。魚のストレスとなりうるものは、水温の急変、水質の悪化、過剰な掃除、酸化したエサなどです。例えば、金魚を飼育する場合でも、ヒーターを設置して水温を一定に保てば、病気になりにくくなります。

#### ●定期的なメンテナンス…

魚の健康を管理するためには、定期的なメンテナンスが必要です。2~3週間に一度、水槽の水を1/3~1/2程、新しい水に取り替えます。この水換えは、pHの低下を抑えるためにも必要です。また、半年に一度は底砂利やろ材を交換します。水換えを行わないと、pHが徐々に低下し、水換えをしたときに、pHの差違が大きくなり、pHショックを起こす可能性があります。また、急激な水質の変化により、著しく体調を崩してしまうことがありますので、少量ずつ水を換えるようにします。

#### ●日頃から様子を観察する…

病気を早く治すコツは早期発見・早期治療です。日頃から魚の様子をチェックし、早めに対処するように心がけて下さい。



## 対策②:魚病薬

気を付けたにもかかわらず、病気になってしまった場合には、魚病薬を使用します。症状に合わせて適切な魚病薬を使いましょう。

## 【薬品の剤形】

観賞魚用治療薬には、種類によって液体タイプ・顆粒タイプがあります。

例えば、白点病治療薬には液体タイプのグリーンFリキッドと顆粒タイプのニューグリーンFがありますが、どちらも病気に対する効果は同じです。使用状況に合わせて、お選び下さい。



## 【薬品の使い方】

### ①必ず規定量を守りましょう…

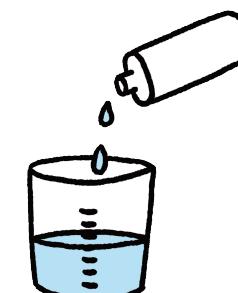
量を多く入れても病気に対する効果は変わりません。多く入れすぎると逆に魚の体調を崩す場合があります。また、薬品が使用できない魚種もありますので、説明書をよく読んでからお使い下さい。

### ②魚病薬使用中もエサは与えましょう…

魚病薬使用中でも、必ずエサは与えて下さい。魚病薬は病原体を除去しますが、患部を直すのは魚の体力次第です。体力を衰えさせないためにも、与え過ぎに注意しながら与えて下さい。

### ③隔離水槽は有効?…

基本的に、病気の発生した水槽は、病原体で汚染されていると考えて下さい。したがって、病魚だけを隔離して治療しても、元の水槽内には病原体が多数残っているため、別の魚が感染する(感染している)可能性があります。魚病薬は病気の発生した水槽でお使いになることをお勧めします。



## 【I】白点病について

白点病は一見すると、魚の体表に付着している様に見えるが、これは魚の表皮内(粘膜に)寄生している寄生虫(纖毛虫:イクチオフチリウス・ムルチフィリス)の一一種です。

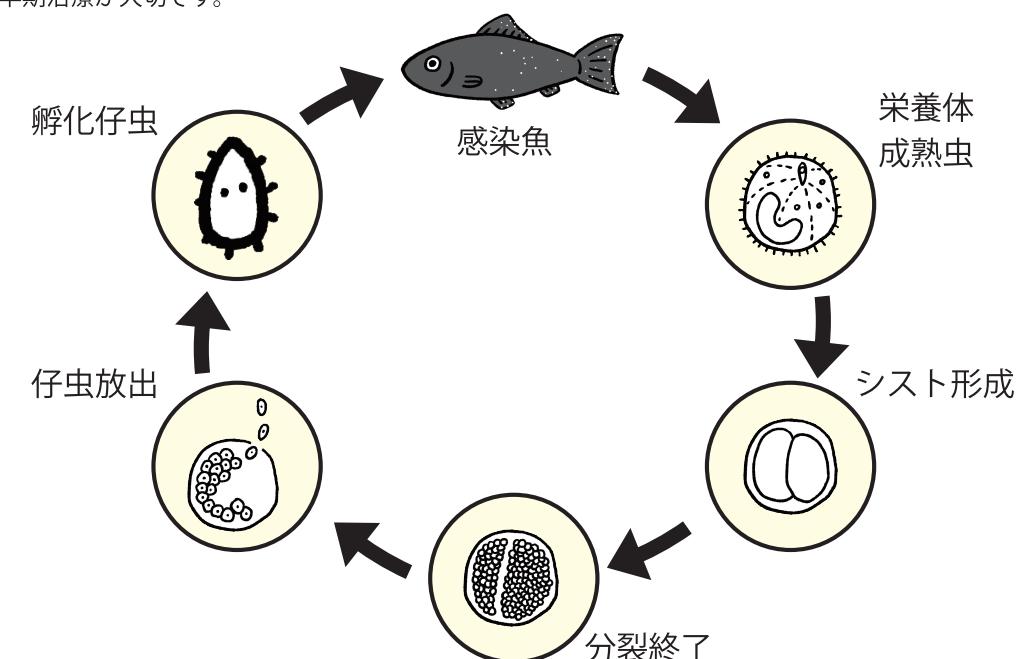
### 《症状》



この図のように、白点虫は魚の表皮内に寄生しています。白点虫は纖毛を使って表皮内を回転運動するため、この移動の際に纖毛が真皮に擦れ、魚が痒がり、岩や流木に体を擦り付けるという行動をよくとります。この痒みと擦りつけによる傷が魚にストレスを与え、病気が悪化する事が考えられます。白点病を治療するには、白点虫の生活環を知らなければなりません。

### 《白点虫の生活環》

これが白点虫の生活環です。1個の白点虫が1日で約2,000個にまで増えるため、白点病は早期発見、早期治療が大切です。



## 【I】白点病について

①水替え(1/2~1/3程度)

水槽内の成熟虫、シスト、仔虫をできる限り減らすために、なるべく水底の砂利のあたりを掃除するような感じで水換えを行います。

②水温を上げる(26~28°C程度)

急激な水温の変化はかえってストレスになるため、ヒーターを使ってゆっくりと水温を上げます。

白点虫を早く魚体から離れやすくさせて、薬効を高めるために水温を上げます。

③投薬

薬品名	薬効
グリーンF	
グリーンFリキッド	5~7日
ニューグリーンF	
メチレンブルー	
グリーンFクリア	10~14日
アグテン	2~3日



④ ①~③を2~3回行う

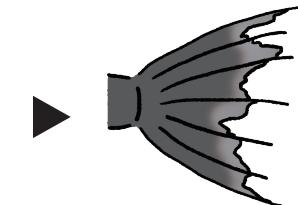
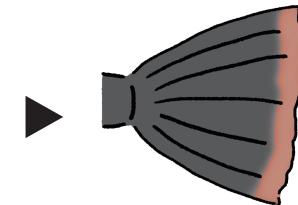
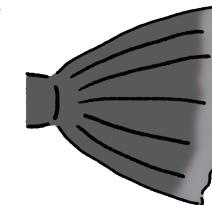
親虫や治療を行う直前に寄生したばかりの仔虫は魚の表皮に遮られるために薬があまり効きません。この状態で2週間程寄生していますが、薬が効いているのは1週間なので薬効のほうが早くきれてしまします。白点虫が2週間寄生するということは、最低でも2週間以上は薬が効いている状態にしておかなくてはならないので、①~③を2~3回行う必要があります。

\*白点病の死因の大半は、白点虫のエラ寄生による酸欠といわれています。

## 【II】尾ぐされ病について

尾ぐされ病は熱帯魚ではグッピーやエンゼルフィッシュ、金魚では琉金やコメットなど特にヒレの長い魚種に発生しやすい細菌性の疾病です。フレキシバクター・カラムナリスという細菌が尾ビレなどの傷口から感染し、タンパク質を分解しながら進行していきます。

《症状》



《治療》

①水替え(1/2~1/3程度)

水の状態を整えて、病原菌を減らすために水換えを行います。

②水温を上げる(26~28°C程度)

急激な水温の変化はかえってストレスになるため、ヒーターを使ってゆっくりと水温を上げます。

③投薬+塩

グリーンFゴールド、グリーンFゴールドリキッド、観パラD、アグテンで薬浴します。

上記の薬と塩を0.3~0.5%入れてください。(水60Lに対し塩150~250g)

塩はフレキシバクターの発育を阻害する働きがあります。

ほぼ一度の投薬で完治するが、完治しない場合は①~③を再度行います。白濁、充血がおさまると治癒に向かいます。しかし、ヒレの再生は魚の体力次第です。

※治療時の注意点

但し、魚種の塩に対する耐性に注意する必要があります。金魚、鯉、プラティー、グッピーは塩に強く、ネオンテトラ、コリドラスは塩に弱いです。



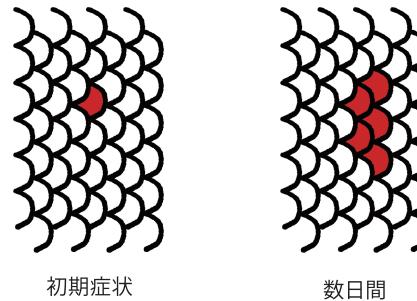
使用できる薬品名

グリーンFゴールド 顆粒
グリーンFゴールドリキッド
観パラD
アグテン

### 【III】穴あき病について

穴あき病は細菌性の病原菌(エロモナス・サルモニシダ)が原因で、タンパク質を分解しながら進行していきます。この病原菌は低水温性の病原菌で、金魚や鯉などの池でよく発生し、ヒーターの入っている熱帯魚の水槽ではほとんど発生しません。

#### 《症状》



初期症状

数日間



重症

この病気自体で死ぬことはほとんどありませんが、そこが傷口となりそこから水カビ等を併発することがあります。

#### 《治療》

##### ①可能な限り水替え

池では難しいが水槽では可能です。

##### ②可能な限り水温を上げる(25°C程度)

低水温を好む病原菌のためできれば温度を上げます。

##### ③投薬+塩

グリーンFゴールドリキッド、観パラDで薬浴します。

上記の薬と塩を0.3~0.5%入れてください。(水60Lに対し塩150~250g)

塩を入れて浸透圧を調整する事で、体液の流出をおさえ、体の負担をやわらげます。

##### ④グリーンFなどを併用します。

穴あき病の穴からの2次感染(水カビ、フレキシバクターなど)を防ぐために入れると効果的です。

治療ができると充血が止まり、穴が塞がっていきます。しかし、穴の再生は魚の体力次第なので、早期発見、早期治療が大切です。

※最終的には浸透圧調節ができずに死亡してしまいます。



使用できる薬品名
グリーンFゴールドリキッド
観パラD
グリーンFなどの薬品

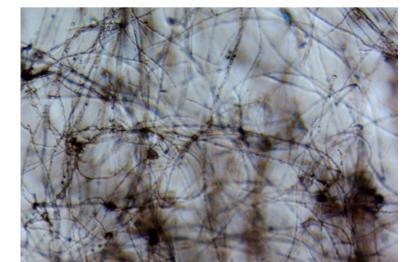


### 【IV】水カビ病について

魚の体表にフサフサした綿状の塊が付着しているのが水カビ病です。水カビ病は水カビ科に属する種々のサプロレグニアによる寄生が原因です。綿状にみえる部分は菌糸体と呼ばれ、植物の根のように体のなかへ入り込み養分を吸収し短期間で進行します。

飼育水の中には水カビの種というべき遊走子が存在しているのが普通で、健康な魚が簡単に水カビ病になることはありません。水カビは外傷や穴あき病、尾ぐされ病の患部に二次的に発生する場合がほとんどです。

#### 《症状》



#### 《治療》

##### ①水替え(1/2~1/3程度)

水の状態を整えて、病原体を減らすために水換えを行います。

##### ②水温を上げる(25°C以上)

急激な水温の変化はかえってストレスになるため、ヒーターを使ってゆっくりと水温を上げます。

##### ③投薬+塩

グリーンF、ニューグリーンF、グリーンFリキッド、メチレンブルー水溶液、アグテン、アグテンパウダーで薬浴します。

上記の薬と塩を0.3~0.5%入れてください。(水60Lに対し塩150~250g)

##### ※治療時のポイント

塩を入れて浸透圧を調整する事で、体液の流出をおさえ、体の負担をやわらげます。

またピンセットや綿棒などで患部から直接水カビを取り除き、薬剤を直接塗布することも効果的です。他の病気と併発している場合、例えば尾ぐされ病と水カビが発症しているときは、まずグリーンFゴールドを投薬し、尾ぐされ病の対応処置を施してから、数時間後にニューグリーンFまたはグリーンFリキッドを投薬し、本病の処置をします。



使用できる薬品名
グリーンF
ニューグリーンF
グリーンFリキッド
メチレンブルー水溶液
アグテン
アグテンパウダー

## 【V】細菌性皮膚炎について

初期症状は、体の数箇所が、血がにじんだようになります。病気が進行すると充血の範囲は、全体に行き渡りますが、局所的な場合もあります。病魚は、衰弱して死に到ります。また、腹部の膨満、肛門が腫れることもあります。

エロモナス ハイドロフィラとよばれる病原細菌の感染によって引き起こされる病気であることがわかっています。この病原細菌は、淡水環境中では常に存在する細菌ですが、水質の変化等で魚がストレスを受けたときに、この細菌に対する抵抗力が低下し病気が発生すると考えられています。特に梅雨の時期では、雨が降った後などは、水温が急激に変化することがあるので要注意です。また、この細菌は、比較的高水温(25~30°C)で繁殖しやすい細菌ですので、夏~秋にかけて発生しやすい病気です。また、池で飼育されている鯉は、水温の変化が著しい春先は要注意です。この時期は、越冬明けで鯉は、病原菌に対する抵抗力が低下していますので、これらの病原細菌に感染しやすいと言われています。

### 《治療》

#### ①水替え(1/2~1/3程度)

水の状態を整えて、病原菌を減らすために水換えを行います。

#### ②投薬+塩

グリーンF、ニューグリーンF、グリーンFゴールド顆粒、グリーンFゴールドリキッド、観パラDで薬浴します。

上記の薬と塩を0.3~0.5%入れてください。(水60Lに対し塩150~250g)

### 《症状》



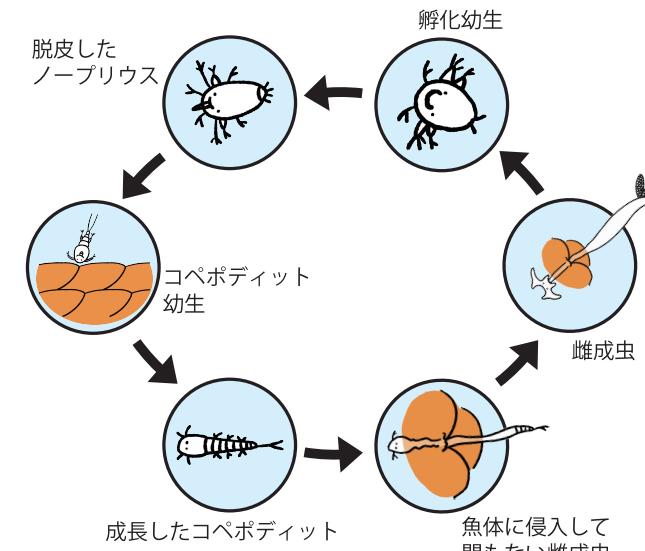
使用できる薬品名
グリーンF
ニューグリーンF
グリーンFゴールド顆粒
グリーンFゴールドリキッド
観パラD



## 【VI】イカリムシ症について

イカリムシは池などでよく発生する寄生虫です。船の碇に形が似ていることからイカリムシといわれ、魚体に寄生するのは全てメスです。

### 《イカリムシの生活環》



### 《症状》



### 《治療》

#### ①可能な限り水替え

水中にいるノープリウスやコペポディットをできる限り減らすために水換えを行います。

#### ②投薬

リフィッシュが効くのはノープリウスとコペポディットで親虫(♀)、卵には効きません。

③①~②を4回以上行う。

#### リフィッシュ

薬が効くのは親虫と幼虫のみで、卵には効きません。

薬効が2週間で寄生期間が2ヶ月の為。

水温が低下しても、♀は魚の体内で抱卵はできませんが、越冬できます。春先に暖かくなると、またサイクルを再開し始めるので、春先にリフィッシュを投薬しておくと、その年のイカリムシを駆除できます。

#### ※治療時の注意点

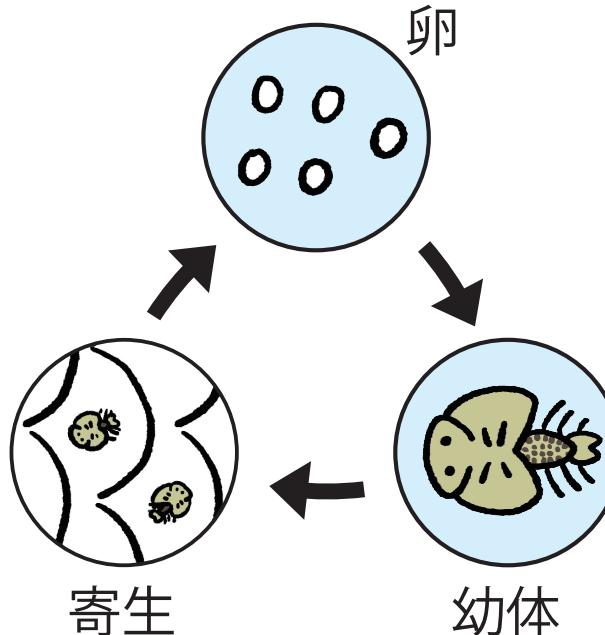
リフィッシュは28°C以上で効果が無くなり、pH8.0以上で副作用があるために注意が必要です。

使用できる薬品名
リフィッシュ

## 【VII】チョウ(ウォジラミ)について

チョウは池などでよく発生する寄生虫です。吸盤で魚体に吸い付き、口針で体液を吸います。オス、メスともに寄生します。

### 《チョウの生活環》



### 《治療》

①可能な限り水替え

水中にいる卵、幼体、親虫を減らすため

②水温を上げる(25°C程度)

③投薬

リフィッシュ: 薬が効くのは親虫と幼虫のみで、卵には効きません。

### ※治療時の注意点

チョウは魚体に針を刺すので、魚がかゆがって岩や流木に体を擦りつけ、体を傷つけることがあります。その傷からミズカビなど2次感染を受けることがあります。リフィッシュは寄生虫と細菌感染には効きますが、ミズカビには効きませんので、メチレンブルー水溶液を併用するとよいです。

### 使用できる薬品名

リフィッシュ

## 【VIII】エラ病について

エラ病は外見からはわかりにくいエラの中で発生するため、発見が遅れて重症になっていることが多いです。エラは水中の酸素を体内に取り込み、二酸化炭素やアンモニアを体外に排出する器官で最も水にふれるところです。そのため、最も寄生虫や細菌が付きやすいところでもあります。

### 《症状》



### 【症状の具体例】

- ボートしている
- 鼻上げをする
- エラ蓋の動きが速い、バラバラなど
- エラから粘液が出ている
- エラが欠損している
- エラが変色している

これらの症状は重症なので、他の魚に移らないようにするために治療をします。エラや内臓は再生が一番難しいところのため、早期発見、早期治療が大切です。

### 《治療》

なにが寄生しているか  
わからない場合

- 水カビ・白点虫：メチレンブルー系
- フレキシバクター：観パラD・ゴールドなど

①水替え(1/2~1/3)

②水温を上げる(28°C程度)

③投薬

#### ◆金魚の場合

リフィッシュ+グリーンFゴールドまたは観パラDを使います。

#### ◆熱帯魚の場合

メチレンブルー+グリーンFゴールドまたは観パラDを使います。

※複数の薬を併用する場合は両方とも規定量ずつ入れます。また、薬どうしの相性もあるので一方の薬を入れて数時間してから、もう一方の薬を入れてください。

## 【観賞魚用魚病薬一覧表】

### グリーンF



【効能又は効果】  
・観賞魚の白点病、尾ぐされ症状、水カビ病並びに細菌性感染症の治療。

【用法及び用量】  
・水 30～40L当たり本剤 5gを徐々に加えた後、よく混和して薬浴する。

### 白点病



【効能又は効果】  
・観賞魚の白点病、尾ぐされ症状、水カビ病、外傷並びに細菌性感染症の治療。

【用法及び用量】  
・水約50Lに対して本剤5gをよく混和して用いる。

### グリーンFクリア



【効能又は効果】  
・観賞魚の白点病の治療。

【用法及び用量】  
・本品100mLを飼育水200Lの中に加えた後、良く混和し病魚を7日間薬浴させる。

### グリーンFリキッド



【効能又は効果】  
・観賞魚の白点病・尾ぐされ症状、水カビ病並びに外傷の治療。

【用法及び用量】  
・本剤5mLを水6～7.5Lの中に徐々に加え、後よく混和して用いる。

### グリーンFゴールドリキッド



【効能又は効果】  
・オキソリン酸感受性菌による下記疾病魚類の治療、観賞魚：エロモナス属による穴あき病の早期治療、エロモナス属による穴あき病の治療。

【用法及び用量】  
・穴あき病の早期治療には本品10mLを飼育水10Lの中に徐々に加えた後、よく混和して、4時間薬浴する。穴あき病の治療には本品10mLを飼育水10Lの中に徐々に加えた後、よく混和して5～7日間薬浴させる。



### メチレンブルー水溶液

【効能又は効果】  
・観賞魚の白点病、尾ぐされ症状、水カビ病の治療。

【用法及び用量】  
・本剤10mLを水約40～80Lの割合で溶解させ薬浴させる。



### アグテンパウダー

【効能又は効果】  
・観賞魚の白点病、尾ぐされ症状、水カビ病、外傷及び細菌性感染症の治療。

【用法及び用量】  
・本剤2gを水30～100Lの割合に溶解して用いる。

### グリーンFゴールド顆粒



【効能又は効果】  
・観賞魚の細菌性感染症の治療。

【用法及び用量】  
・水32～40Lあたり本剤1gを徐々に加えた後、よく混和して薬浴する。

### 観パラD



【効能又は効果】  
・オキソリン酸感受性菌による下記疾病魚類の治療、観賞魚：エロモナス属による穴あき病の早期治療、エロモナス属による穴あき病の治療。

【用法及び用量】  
・穴あき病の早期治療には水10L当たり本剤1mLを溶解（オキソリン酸として5μg/mL）し、4時間薬浴する。穴あき病の治療には水10L当たり本剤1mLを溶解（オキソリン酸として5μg/mL）し、5～7日間薬浴する。

### アグテン



【効能又は効果】  
・観賞魚の白点病、尾ぐされ症状、水カビ病の治療。

【用法及び用量】  
・飼育水100リットルに対して本品10mLを添加する。

### エルバージュエース



【効能又は効果】  
・ニフルストレン酸ナトリウム感受性菌に起因する下記疾病魚類の死亡率の低下。

観賞用のコイ、フナ及びキンギョ：エロモナス感染症（穴あき病・立鱗病・スレ症）、カラムナリス病（鰓腐れ・尾腐れ・口腐れ）

淡水産熱帶魚：カラムナリス病

### リフィッシュ



【効能又は効果】  
・観賞魚のウォジラミ（ちょう）及びイカリムシの駆除並びに細菌性感染症の治療。

【用法及び用量】  
・本剤0.5gを水75～150Lの割合で溶液となるように、水槽又は池に散布する。

## 【薬の使い方について】《観賞魚用治療薬の正しい使用方法》

グリーンF、ニューグリーンF	白点病、水力ビ病、尾ぐされ症状、外傷、細菌感染症
グリーンFリキッド、メチレンブルー、アグテン	白点病、水力ビ病、尾ぐされ症状、外傷
グリーンFクリア	白点病
グリーンFゴールド顆粒	細菌感染症
観パラD、グリーンFゴールドリキッド	穴あき病、オキソリン酸感受性菌感染症
リフィッシュ	イカリムシ、ウォジラミ
エルバージュエース	尾ぐされ病、穴あき病

## 《観賞魚用治療薬の使用上の注意》○：使用可能 △：使用に際し、注意が必要 ×：使用不可

	グリーンF ニューグリーンF グリーンFリキッド	グリーンFゴールド 顆粒	リフィッシュ	観パラD グリーンFゴールド リキッド	グリーンF クリア
コンディショナー類	△	△	△	△	△
UV殺菌装置	△	△	△	○	×
オゾン殺菌装置	△	△	△	○	×
pH5.5以下の水	○	○	○	×	×
28°C以上の水	○	○	×	○	○
水草	×	×	×	○	○
古代魚	△	△	×	×	×
大型シクリッド	○	○	×	○	○

## 《観賞魚用治療薬の薬効期間》

薬品名	薬効期間
グリーンF、ニューグリーンF	5～7日間
グリーンFリキッド、メチレンブルー水溶液	5～7日間
グリーンFクリア	10～14日間
アグテン	2～3日間
グリーンFゴールド顆粒	5～7日間
グリーンFゴールドリキッド、観パラD	10～14日間
エルバージュエース	3～5日間
リフィッシュ	10～14日間

## 《観賞魚用治療薬の使用時のご注意》

### ①バクテリアに対する影響について

本来、観賞魚用治療薬は寄生虫や細菌を殺傷するために造られたものです。したがって水槽内で薬品を用いると、その影響は濾過層に定着している濾過バクテリアにまで及びます(観パラD、グリーンFゴールドリキッドは濾過バクテリアに影響を与えません)。しかし、病気の発生した水槽というのは水質が悪化していることが多く、濾過バクテリアが満足に活動できない状態になっています。また、病原体も濾過層内に入り込んでいるわけですから、濾過層ごと薬品による治療を行なうべきであるといえます。

### ②酸性、又はアルカリ性における効果の違いについて

基本的に強酸性、又は強アルカリ性の飼育水でなければ特に問題はありません。しかし、グリーンFクリアーやグリーンFゴールドリキッド、観パラDは成分がアルカリ性であるため、pH5.5以下の水質では成分が不安定になりますので使用は避けてください。また、リフィッシュはpH8.0以上の飼育水で使用することはできません。

### ③魚の種類別による使用方法について

リフィッシュ以外の薬品は金魚、熱帯魚に使用できます。ただし、古代魚やナマズ系の魚には使用しないで下さい。リフィッシュは金魚のみ使用できます(熱帯魚には使用不可)。また全ての薬品は海水魚水槽には使用できません。

### ④使用時の温度について

観賞魚用治療薬は、通常25°C付近で最も薬効があります。低温では薬効が低くなります。高温では薬効が高まるのですが、薬効期間が短くなります。

また、リフィッシュは28°C以上の水温では成分が不安定になり、使用できません。

### ⑤水草に対する影響について

観賞魚用治療薬は水草に対して影響を与えます。したがって、水草水槽で病気が発生した場合は、水草を水槽から取り出し、強い水流で洗ったあとバケツに入れて保存します。その際、エアレーションを忘れずに行ないます。

病魚だけを取り出して、トリートメントタンクで治療するという方法もありますが、水槽内全体が病原体によって汚染されていますので、水槽全体に薬品が効くようにしなければ効果的な治療にはなりません。

ただし、グリーンFクリアーやグリーンFゴールドリキッド、観パラDは水草水槽でもそのまま使用できます。

### ⑥複数の薬品の使用、コンディショナーとの併用について

白点病などの病気は一種類の薬品を投薬することで治療することができます。しかし、病気を併発していると複数の薬品を必要とすることがあります。このような場合には複数の薬品を投薬することになりますが、大半の病気は最大で2種類の薬品を投薬することで治療することができます。3種類以上の薬品を投薬する必要はありません。

(例) 穴あき病の治療:グリーンF+グリーンFゴールド (悪い例) 白点病の治療:グリーンF+グリーンFクリアーや複数の薬品を投薬する際は、一つ目の薬品を水槽に投薬し、よくかき混ぜた後数時間後に二つ目の薬品を投薬して下さい。また、薬品とコンディショナーとの併用は極力避けて下さい。カルキ除去剤程度は大丈夫ですが、pH調整剤などは薬品と反応する可能性があります。

### ⑦目的に合った薬品を使用しましょう。

薬品にはそれぞれ特長(殺菌、駆虫、抗菌など)があり、それ以外の効き目はないので目的に合った薬品を使用してください。

### ⑧散布は均一に行いましょう。

薬品を池に散布する場合は、薬品をあらかじめ薄めておきそれをジョウロなどで、池全体に均一に行き渡るよう散布してください。

### ⑨薬品使用後に魚を観察しましょう。

使用濃度が適正であったか、効果が出たか、魚や水の状態をよく観察してください。

### ⑩早期発見・早期治療が大切です。

早期に魚の異常を発見し、早いうちに対策をとることが大切です。ほとんどの病気は重症になってからでは手遅れになることが多いので注意してください。

